

## 宮城・大日南遺跡

だいにちみなみいせき

ことができた。

### 宮城・大日南遺跡

所在地 宮城県多賀城市高橋字大日南・門間田

調査期間 一九九五年（平7）四月～八月

発掘機関 多賀城市埋蔵文化財調査センター

調査担当者 武田健市・鈴木孝行・菊池 豊・伊藤 浩

遺跡の種類 屋敷跡

遺跡の年代 中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大日南遺跡は特別史跡多賀城跡の南西約1kmに位置し、海拔4m前後の微高地上に立地している。本遺跡では今回の調査を含め計四

度の調査を実施しており、  
一三世紀～近世初頭にかけ

ての遺構を多數発見してい  
る。なかでも一五～一六世

紀頃にかけては、一辺四〇  
mを超える溝で周囲を区画  
した屋敷跡が微高地上に密

集していたことが判明し、

同時期の貴重な資料を得る



（仙台）

木簡は、そのような屋敷の内側で検出したSK-103土坑から一点出土している。土坑の平面形は円形である。規模は直径三・五m深さ一・一mで、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は三層に大別でき、木簡は最下層の粘土層から多数の木片に混じって出土した。木簡以外には、白磁杯（新安海底沈没船引き揚げ品と類似）・青磁碗・北宋錢（元符通宝）・漆器碗・下駄・木錘・曲物・羽口などが出土している。北宋錢と下駄以外はすべて破片である。土坑の年代については、白磁杯の年代から一四世紀以降のものと考えられる。

### 8 木簡の釈文・内容

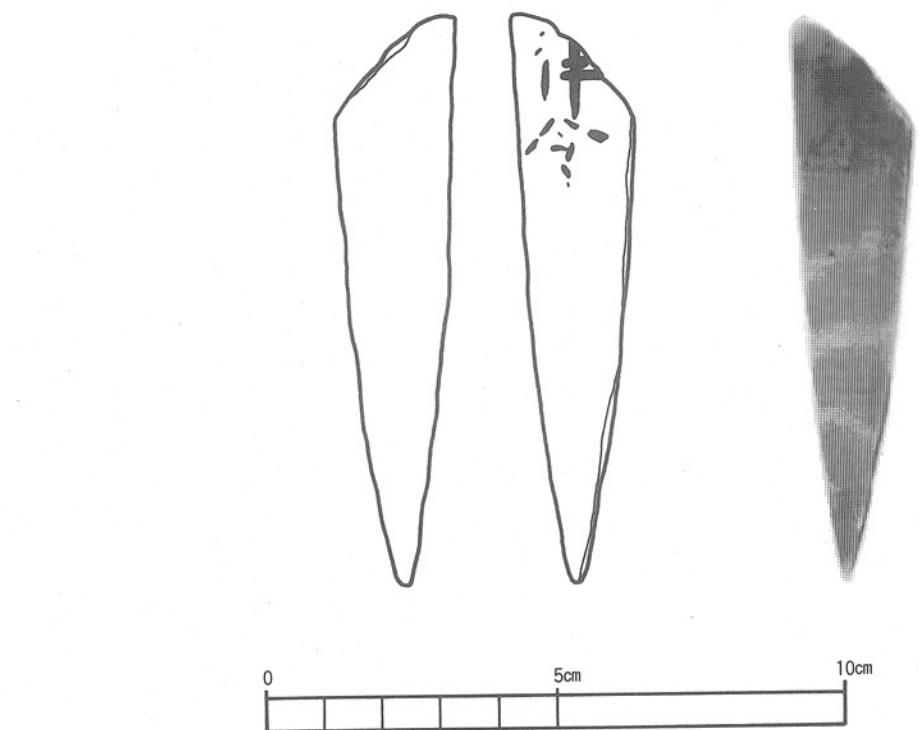
#### (1) ×律令

(98)×(21)×2 059

木簡の上部は大部分が欠損しているが、「律令」の二文字を肉眼で確認できる。

なおこれ以外にも一五～一六世紀頃の溝から木簡が一点出土しているが、現在調査中である。

（武田健市）



## 岩手・志羅山遺跡

所在地 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山

調査期間 第二次調査 一九九二年(平4) 一月

発掘機関 平泉町教育委員会

調査担当者 菅原計二

遺跡の種類 集落跡

遺跡の年代 一二世紀

遺跡及び木簡出土遺構の概要



(一) 関

志羅山遺跡は平泉町の中心市街地の南側に位置し、JR東北本線平泉駅の西側300mの付近を中心として、東西500m・南北500mの広がりをもつ遺跡である。平泉は一一世紀末から一二世紀後半にかけての約900年間、奥州藤原氏が四代にわたり本拠地とした地域である。当遺跡の周辺には西に特別史跡毛越寺跡・観自在王院跡と倉町遺跡、東に泉屋遺跡、北に花